

12月も引き続き

「ぶんちゃんに年賀状を書こう」でした



11月から引き続き行っていた「ぶんちゃんに年賀状を書こう」イベント。12月中の営業まで約60名にご参加いただきました。

年賀状用に用意していた紙が「画用紙」でしたので、本物の年賀状のように裏面に「宛名」「差出人らん」がありませんでしたが、「ぶんちゃんに“私から”出すって知って欲しいから」と自ら書いてくださるお子様もいらっしゃいました。地域のかた、特にお子様からぶんちゃんが愛されていることを改め

て知ることができました。そして同時に行っていた「けしゴムはんこ作り」では、100円で消しゴム・説明書・トレーシングペーパーのセットを販売。お小遣いで買って、「ぶんちゃん」の顔のハンコを作って家で押して、お店に持ってきてくれたかたもいました。とても可愛かったのも、その後このセットのPOPを再利用させてもらっちゃいました。

1月3・4日の新春セールでは、ぶんちゃんに年賀状を書いてくれたかたへぶんちゃんから「お年玉付き年賀状」のお返しをします。実際のお年玉付き年賀はがきのように、当選した桁の数によってそれぞれ景品が違います。喜んでもらえると嬉しいです。(この新聞は12月末に作成しています) 年賀状以外でも手作りのお便りを出す楽しさを知るきっかけとなればいいと思います。たくさんのご参加ありがとうございました。



ちよこっと豆知識 もらって嬉しいお年玉。入れる袋はなぜ「お年玉袋」じゃないの？



お年玉を渡す・貰う際に必ずと言っていいほど必要となるぼち袋…今回はそんなぼち袋についての豆知識を紹介していきます。

元々は、花柳界での芸妓・芸者の花代やお付きの人への祝儀(=チップ)として小銭を手渡すのに懐紙や半紙に包んで手渡していたものが、硬貨はこぼれやすいため、包みの端を糊で止めるようになり、それがいつしか袋=「ぼち袋」へと変化しました。

「ぼち袋」とぼちとは、犬のことではありません。実は、関西地方の方言からきているものです。関西地方で「ポチ」とは、「点、ちいさいもの、わずか、心ばかり、少しだけ」という意味。そんな、「少しばかりの気遣い」という日本人らしい謙虚な気持ちがぼち袋を使う際には込められているため、「ぼち袋」と呼ばれるようになったそうです。

懐紙や半紙から手貼りの袋に変わって行くにつれ、袋の表面も白無地から手書きや木版刷りのデザインが施されるようになり、その当時はその用途から「粋」な図柄が主流でした。昭和に入って(盛んに用いられるようになったのは昭和の中期以降)正月のお年玉袋として一般に用いられるようになってからは、贈る側の大人にあわせて松竹梅・鶴亀・縁起物などを用いた図柄が主流を占めていました。その後贈られる側の子供にあわせた正月もの(凧や羽子板など)や子供の正月風景などの図柄に変わっていき、現在では子供向きのキャラクターを始めファンシーな図柄が主流を占めています。

時代が変わってもデザインに変化があっても、昔からずっと人々に使われ続けているぼち袋。歴史がすごく深いですね。



stationery goods
BUNseido

株式会社 文盛堂

TEL 042-752-2303(代表)

042-752-1104(店直通)

FAX 042-755-5117

〒252-0237

相模原市中央区千代田 6-1-18

U R L <http://www.bunseido.net> MAIL bunseido@bunseido.net

ショップカードもあります

LINE

@wdi0003d



Instagram

@bunseido



Youtube チャンネル

ぶんちゃんねる

しんぶんちゃんの他にもこちらで最新情報をお届けしています!